

## 報 告 書

未来の柏の図書館について語り合おう！（3）

手作り科学館 Exedra

平成 30（2018）年 8 月 19 日（日）

アカデミック・リソース・ガイド株式会社（ARG）

## 1. 基本情報

### 1.1. 開催日時

平成 30 (2018) 年 8 月 19 日 (日) 17:00~19:00

### 1.2. 会場

手作り科学館 Exedra (柏市末広町 9-6 柏嶋屋荘)

### 1.3. 参加者数

参加者 : 5 名

### 1.4. 事務局

#### 生涯学習課

高村課長、柳川副主幹、川本主任

#### 図書館

後藤副主幹

アカデミック・リソース・ガイド株式会社 (ARG)

李、宮田

## 2. プログラム

プログラムは以下の通りです。

時間	内容
17:00~17:05 (05分)	趣旨説明、本日の流れ
17:05~17:15 (10分)	自己紹介
17:15~17:50 (35分)	ワークショップ#1 図書館への期待と課題
17:50~18:00 (10分)	休憩
18:00~18:40 (40分)	ワークショップ#2 どんな図書館だったら行ってみたい ダブルデッキ・ライブラリーフェスでできること
18:40~18:55 (15分)	グループ発表 (3分×2グループ) とまとめ
18:55~19:00 (05分)	閉会の挨拶と事務連絡 (今後の予定等)

### 3. ワークショップ

#### 3.1. 図書館への期待

- ・ 駐車場の閉まる時間を気にしなくてよい、1日ゆっくり過ごせる図書館
- ・ 静かに過ごしたい人は過ごせるし、子どもたちは多少騒いでも大丈夫というように、異なる世代が思い思いの過ごし方ができるようにしたい
- ・ 新しくできた図書館が実現しているようなゾーニングがうまく行われていること
- ・ 図書館に行けば専門的なものも含めて、調べたいものが何でも一通りあること。それがあることで、図書館が「聖地」になると思う。さらに知識を得るだけでなく、課題の作成や発表の準備までできることが大切
- ・ 植物図鑑でも牧野富太郎の図鑑が見たいときに、学校図書館では足りないし、書店で立ち読みするわけにもいかない。そういった図鑑類も公共図書館にあることを期待
- ・ ネットにある情報で調べるだけで満足せず、その原典を調べられる場所としての図書館
- ・ ネットの情報だけだと調べ物学習を掘り下げていけない。必要な書籍を書店で買い揃えとかなり金額になる。それを考えると、多様な分野の本が一箇所があり、関連する領域を、あっちに行ったりこっちに行ったりして、関係性を発見していけるのは、物理的な空間を持つ図書館の特長だと思う
- ・ 網羅性と専門性が書店との違い。点の情報だけでなく関係性の可視化が大切
- ・ 市民の研究等の成果を伝える場所としての図書館の可能性
- ・ 人工知能（AI）が本を薦めてくれるとしても、司書のレファレンス能力には期待している。AIか司書の二者択一ではない
- ・ 柏まつり等、地域のことを調べたかったら、柏市の図書館司書の出番だと思う
- ・ 図書館はコミュニティの場であるというのは、「きわどい」と思っている。図書館は図書館としてしっかりしてもらいたいと思っている。図書館像がたくさん語られている現状で、いろいろな要望を聞きすぎると、本来の図書館のあり方がぼやけてしまうのではないか

#### 3.2. 図書館の課題

- ・ 子どもが小さいときは子ども図書館で過ごしたし、自分が本を読みたいときは T-SITE に行って、いまは田中の分館に行っているのでも、使い分けをすれば、個別に必要な場所が市内で提供されている
- ・ 施設が古くなって空間に余裕がなくなっている。子どもが寝そべって本を読むようなスペースをいまの施設に期待するのはむずかしい。分館のスペースも限られているので、ゆったり過ごせるスペースがどこにもないのが課題

- ・ 小説などは自分で買っている。図書館に求めるのは調べ物の本。柏市の図書館にはそのような本が少ないので使っていない
- ・ いまの自分は仕事で必要になった本を探すために図書館に行くが、柏市の図書館ではそういった用途で利用できないので、使うことがない
- ・ 図書館本館の 2 階に行くと、特定の男性たちが使っている景色が目に入る。パレット柏も高校生の勉強の場として定着している。そういった特定の利用者像と結びつかない場所に図書館がなれば、個人的には使いやすくなるのではないかと思う
- ・ 柏市の図書館の資料は利用しないが、唯一、柏市民新聞をコピーしに行く。最新号がコピーできないのと、どこをコピーしたか申請しないといけない。利用のルールには従っているが、できればそうしたルールが少ない図書館となるとよい。今の図書館には禁止事項が多い
- ・ Exedra に来る子どもたちも、ネットで調べることが多いので、本で調べる方法を教えてくれるプログラムを提供してほしい
- ・ 司書の方は忙しいときがあるので、まずは AI が利用者の問い合わせに対応してもよいと思う。更に深く調べ方を知る必要があれば司書の方に聞けるとよい
- ・ 司書の人にレファレンスを尋ねる発想を持っていなかった
- ・ 本が全てデジタル化されていない現状だと、自分で検索しても調べきれない部分があるので、そこに司書の出番があると思う

### 3.3. どんな図書館なら行ってみたい

- ・ 歩いて行きやすいかどうか。引っ越すときに分館が近くにあるかどうかで、住む場所を選んだ経験がある
- ・ 柏市民にとってのアクセスしやすさは、主観的な意見や感想ではなく、客観的な指標を元に議論するのがよい（感覚的には駅前だと多くの市民にとってアクセスしやすいと思うが）
- ・ 拠点が 2 つあり、それに加えて分館が少しあれば、だいたいのニーズがカバーできるのではないか
- ・ 他の機能を盛り込み過ぎるのではなく、図書館は図書館としてあってほしい。市民活動をサポートする立場から見ると、サポート拠点の近くに図書館がほしい。図書館が市民活動の拠点を取り込む必要はないが、市民活動の拠点と図書館が物理的に近い位置にあることは望んでいる。市民活動をするシニアは多いが、必要な資料があっても、パレット柏から、図書館本館まで歩いて行ってもらうことは難しい
- ・ エッジが効いた場所であれば行ってみたい。職場に大学図書館があり、その近くには図書館改革で話題となる武蔵野プレイスがある。住んでいる松戸にも図書館があり、ほかの図書館でできることばかりであれば、わざわざ行く必要がない。柏市の図書館は代替性のないものになって欲しい

- ・ 図書館本来のあり方の追求とエッジの効いた場所というのは矛盾しているように聞こえるかもしれないが、いまの図書館の議論はこれまでの図書館像を拡張することがメインとなっているので、図書館の本来のあり方を追求すれば自然とエッジが効いた図書館になるはずだ
- ・ 図書館には子どもを本に親しませるために行く。目的があっていくのではない。いまは、子どもが自分で読みたい本を借りているだけで発展性がなかったり、親の好みで子どもに本を選んでいて、次にどんな本を選んであげたらよいか迷うことがある。本をすすめてくれるプログラムやアドバイスがあれば使ってみたい
- ・ 子どもの本のアドバイスは、本館の司書ならできる
- ・ 司書に聞くハードルが高ければ、本の選び方を教えてくれる本を読んでもという方法もある
- ・ 調べ物よりも、何か新しい出会いを求めて図書館には出かけている。出会いの場として、ある程度の本が揃っている必要がある
- ・ 新宿の紀伊國屋書店の2階にいるような、本のコンシェルジュがいてもよい
- ・ 出会いを求めているときは書店に行く。平積み、面陳、ポップ等があり、わざわざ調べようとしなくてもなんとなく情報が入ってくる。同じようなコーナーが図書館にもあってよい。児童書でもそういうコーナーがあると、新しい作家さんと出会う場になると思う
- ・ 自分の子どもの頃を思うと、児童館で手塚治虫の漫画を全巻読んだ。好きな漫画がずっと読める場があると、通り詰めたと思う。あとは昆虫が好きだったので、図鑑類が自由に読めれば、漫画同様に通り詰めたと思う
- ・ 漫画はあったほうがよい
- ・ 漫画を排除する理由はない
- ・ 柏木ハルコさんは柏が地元の漫画家だが、そういった理由での選書は行われていない
- ・ 『ONE PIECE』等、の有名作品であっても基準を満たさないものは入れていない
- ・ 立川まんがぱーくは、市民活動の場に人を集めるためのツールになっているよい事例だと思う
- ・ 子どもたちが図書館について語るワークショップに参加したことがあるが、寝転がって本を読みたいという子どもたちの意見をたくさん聞いた
- ・ こども図書館では、寝転がって本を読んでいる子どもたちをたくさん見かける
- ・ 中学高校のとき、レコードの貸し出しをしている図書館（文京区立小石川図書館）があり、そこをよく利用していることを思い出した
- ・ ビジネスでの利用を考えると、柏市なら図書館に頼らなくても起業に必要な情報を得ることができるので、実用ではなく趣味性を徹底する方法もある。自分と同世代の人もその趣味に合致する人であれば、図書館に集まるのではないか
- ・ 40万人の市民がいる中で、どこのニーズに特化して行くべきか。それが決まれば、柏

市の特徴になるだろう

- ・ 新しくなった明石市の図書館に行き行って感じたのは、以前より明るくなったこと。柏市の図書館も気持ちの面でも近づきやすい明るい場所であってほしい
- ・ 新しい図書館のビジョンと一緒に、新しい評価指標も確立してほしい。そうでないと、いままでと同じような図書館になってしまう。貸出冊数ではなく、司書がアドバイスをした件数をより重視する等

### 3.4. ダブルデッキ・ライブラリーフェスでできること

- ・ ダブルデッキではいつも何かやっている印象があるので、人目を引くものを置きたい。背の高い棚に、大型のビジュアル本を置く等
- ・ Exedra としてではないが、図書館とは何かを多くの人には知らないなので、図書館についての講座や司書の仕事を紹介するイベントをやってほしいが、問題はそれで人があつまるとどうか
- ・ 人を集めるアイデアとして、人間が入れるくらいの大きさの本のハリボテをつくって、それを開けると司書さんが出て来るというアイデアを考えた
- ・ ヒューマンライブラリーを行なっているプロジェクトがあるので、そこを巻き込めるとおもしろいかもしれない
- ・ 人の足を止めるためにビジュアル的にインパクトを出す必要がある
- ・ 特に土曜日はイベント化してほしい
- ・ 人工芝を並べることで、見た目の印象を変えることができるし、子どもたちが寝そべって本を読むこともできる。ハンモックもあると良い
- ・ 金曜日は帰宅時間帯となる夜もやってほしい。会社員が来る時間に照明を工夫する等して、ちょっと異質な空間を演出して、普段、こうした活動に参加しない市民の関心をひいてほしい
- ・ 夜もオープンするなら蛍や雪がほしい
- ・ 背の高い本棚があれば、人目をひくのではないか
- ・ 司書によるビブリオバトルを見てみたい
- ・ 司書の専門性を教えてほしい



以上